

2009年8月28日(金曜日)「日本金融通信社(ニッポン)」13面に掲載

当記事のインターネット掲載に関しましては、媒体社である日本金融通信社様より許可を頂いております。 ヤマトシステム開発 ITセキュアソリューション事業部



20

ヤマトシステム開発は、73年1月にヤマト運輸のコンピュータ部門を引き継いで設立。e-ビジネスを支える8分野の事業を展開している。「社内便追跡ASPサービス」は、銀行、生損保、カード会社などが導入。横裕史ITセキュアソリューション事業部長に営業戦略と金融機関における社内便の運用について聞いた。

ヤマトシステム開発

ITセキュアソリューション事業部長

横 裕史氏



まき・ひろし 大79
阪府出身、52歳。年京都コンピュータ学院卒、ヤマトシステム開発入社、大阪営業所長、ロジスティクス統括部営業部長などを経て09年4月から現職。

社内便ASPに特化

「営業戦略は。SPサービスだ」
「セキュリティと具体的には。」「トレースの技術。」
「受け取る人が、受宅急便を中心としたトキュリティーは、ID け取る前から社内便がトレース技術を76年の宅

ある話。い(ム)を支えている根幹かにセキュの追跡エンジンを我々が持っている。実績、高めて相手量、質、速度、そのいに受け渡すずれも他社にはマネできない。「見える化」残すことがするシステムをASPでリーズナブルに提供できることが強みだ」

「情報漏洩事件が起こる前に対策を取らなければならぬ。事件後では遅い。重要物の扱いのルール作りからでもよい。封筒の色を変えるだけで業務改善さ

ルール作りで業務改善

Cセンターを核とする顧客のサービスを預かるホスティングサービス。トレースは、個人情報にまつわが約12億個、メール便近づく。「見える化」の核は「社内便追跡A万通ということもよくース(荷物追跡システム)聞き手」安藤 克朗)